

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Differences in Rate and Medical Indication of Caesarean Section between Germany and Japan

和文タイトル:

ドイツと日本における帝王切開の医療介入理由の比較

ユニットセンター(UC)等名: 千葉UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pediatrics International

年: 2020 月: 9 巻: 62 頁: 1086-1093

筆頭著者名: 古賀千絵

所属UC名: 千葉UC

目的:

2012年と2013年における日本とドイツ間の帝王切開実施率と医学的適応の差異を評価する。

方法:

ドイツのポピュレーションベースの調査であるPerinatal Surveyと日本のエコチル調査のデータを使用し、帝王切開の全体的な割合と医学的適応の比較を行った。記述統計を行い、対象者の特徴を特定し、帝王切開の発生率と医療適応の違いを比較した。

結果:

ドイツと日本の間で帝王切開の割合に有意な違いが見られた。両国および両年の主な医学的適応は、児頭骨盤不均衡、胎児機能不全、既往子宮手術、反復帝王切開であった。ほとんどの項目で違いがあること、特に下記項目において違いがみられた(多胎、分娩遷延・停止、胎児機能不全)。

考察:(研究の限界を含める)

研究の限界として、胎児機能不全という用語は明確に定義されていないため、幅広い症状を含んでいる可能性がある。帝王切開に関する医療従事者へのトレーニングの改善と金銭的インセンティブの排除に加え、医療スタッフ間で訴訟を恐れることで生じてしまう行動を軽減する方法に取り組むことが不可欠である。

結論:

ドイツの帝王切開割合の方が高かった。帝王切開を実施する理由として胎児機能不全は、ドイツで特に多くみられた。この診断は、胎児の心拍数パターンから得られることが多いため、胎児の心拍数モニタリングの診断の不確実性に対処することで、不要な帝王切開の発生を減らすことができる可能性がある。